

---

**第 106 回松本歯科大学大学院セミナー**

**日 時:** 2005 年 12 月 12 日(月) 17 時 30 分~19 時 00 分

**場 所:** 実習館 2 階総合歯科医学研究所セミナールーム

**演 者:** 高橋 慶壮 氏 (明海大学歯学部歯内療法学分野・講師)

**タイトル:** 歯周病の病態における宿主免疫応答の役割

これまで、漠然と「体質」と言われてきた歯周病進行の個人差が細胞および分子レベルから研究されている。何度かのパラダイムシフトを経て、歯周病の病態は、「宿主 - 細菌相互作用」および「リスク因子」の観点から説明されるようになった。

演者は、宿主側のリスク因子を見出せる可能性の高い侵襲性歯周炎患者に注目し、歯周病病態における宿主免疫応答の特徴を、細胞性(増殖能、リンパ球サブセット、サイトカイン産生能など)および体液性免疫応答(血清 IgG 抗体価および抗体親和性)の点から解析した。また、細胞老化の関わりをテロメア長の特徴から調べた。いずれも、患者群としては明確な機能異常を見出せなかったものの、機能低下を示す患者を見つけた。侵襲性歯周炎患者といえども、宿主因子に共通する機能異常を見出すことは難しく、また僅かな生体防御機能の低下が口腔内の感染症を引き起こしていると考えられる。

一方、歯周炎局所における免疫応答の特徴を、浸潤した細胞群の細胞増殖および代謝の特徴、抗体産生細胞の解析、T細胞の細胞死(アポトーシス)抑制機序、さらにT細胞の役割をサイトカインレベルから、とりわけ Th1/Th2 インバランスの観点から評価した。歯周炎局所では、粘膜免疫よりも全身的な体液性免疫応答が支配的で、浸潤したT細胞は増殖しておらず、アポトーシスを回避して、IFN- $\gamma$ やインターロイキン 17 などのサイトカインを産生し、炎症の増悪および骨吸収に関与していることを示した。

本セミナーでは、歯周病患者の宿主免疫応答の特徴を、全身および局所的研究の両面から紹介し、歯周病病態における宿主因子の役割について考察したい。